

【今回の兼題】

- ① 緑さす
- ② 筍 (たけのこ)



富子

彼方此方と届く筍手に余り
 緑さす死亡広告知人あり
 老いたとて青色切符容赦なく

郁子(岡)

蝸牛何があってもマイペース
 若葉風ドライブ楽し空青し
 竹の子や待つは猪穴ばかり

迪子

裸んぼ好きにしてよと筍は
 喧嘩して負けた子抱きしめ柏餅
 新緑や風と道連れトロッコ列車

綾子

青風ランドセルの子走らせる
 短か夜や昨日の編みかけ枕元
 木下闇玉砂利の音密やかに

哲也

飲み口が薄きお猪口の緑夜かな
 たかなをいりこの出汁に浸しけり
 初夏の土間に一基の引戸駕籠

保子

緑さすきんれん花の葉光好き
 タケノコにくいこまれてよし菜なるし
 葉桜は川辺にのこりなごりよき

緑さす峠のてっぺん国境

千草

○柄鎌振る淡竹の切り口斜交いに

○陶笛吹く人間讃歌聖五月

文子

猪に先を越されて筍掘り

○掘りたての筍でんと玄関に

緑さす茶屋で「ごっくん」飲み千せり

農子

○緑さすゆっくりペダル踏む二人

○水浴びの二羽の雀や緑さす

玄関に茹で筍やほの温し

初江

○緑さす公民館に聴くソナー

筍や精米所のぬか頂戴す

○卯の花を腐して夜の植物園

ゆの

○缶ビール開けるとあふれくる想い

今は昔竹の子生活した覚え

○緑さす不登校児の机上かな

丞子

筍に糠添え土産湯のたぎる

シニアとて人的資源緑さす

傘寿成る妹に日傘を祝ひけり

瑞枝

若葉風黒板塀を濯ぎをり

○娘の膝小僧横一列や夏来たる

到来の筍茹でて日の暮れぬ

羨望の竹の子だった己が背に
 若葉風谷音かろく弾ませて
 卯波立つ大山岬海に落つ

郁子(土)

えり

○緑さすきみが真ん中ゆで卵

夏燕川面昏るるを肩に切る

○筍の鮮度を告げる立ち話

山下 正雄 作品

筍を抱くミサイルを抱くように
 緑さす少女黒髪解き放ち
 母老いて指切らぬかと土佐淡竹

★次回市民句会

【開催日時】

令和八年六月二十四日(水)

午後一時十五分～午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

【兼題】

① 梅雨(の月・雷・夕焼・曇り)

② 枇杷の実

(他の題材でも構いません)

【初めての方へ】

市民句会は、俳句愛好者の集いです。

どなたでも自由にご参加いただけます。

事前申込や参加費は不要です。

